

## 実践研修(現地検討)の概要

近畿中国ブロック

講義等名	一斉人工造林地における地位区分に応じた森林施業と天然力を活用した森林づくり				
研修場所	新見市	実施日	10月25日(水) ～27日(金)	該当する 大目標	現地の状況に応じた森林づくりの構想が描ける能力の習得
<b>【研修のねらい・目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉人工造林地をゾーニングし、目標林型を導き出す能力の習得。</li> <li>天然更新の可能性を判断するための基礎的な知見及び天然更新を成功させるための方策の習得。</li> <li>天然力を活用した森林づくりに関する知見及び意識の向上。</li> </ul>					
<b>【本研修の必要性】</b>					
<p>森林の有する多面的機能の持続的な発揮のためには、その林分に求められる機能を正しく判断して取り扱う必要があり、地位に応じたゾーニングを行い、適切な目標林型を設定する能力が求められる。</p> <p>天然更新は、天然力を活用した施業として、広葉樹林や針広混交の育成複層林の造成を推進する上で有効であるが、成林の不確実性が高く、更新成績が悪い場合には高コストとなることや成林しないことも懸念される。このため、天然更新の可能性を的確に判断する能力や、天然更新を計画する場合に成林の不確実性を最小限にするための方策を導き出す能力が求められる。</p>					
<b>【カリキュラムのポイント】</b>					
<b>【講義】</b>					
<p>① 一斉人工造林地における今後の森林施業【内部講師:計画課 流域管理指導官】:一斉人工造林地の今後の取扱いに関する政府方針。</p> <p>② 多様な森林づくりの構想について【外部講師:森林総研関西支所 森林生態系グループ長】:研究成果等の科学的知見に基づく天然力活用技術。</p>					
<b>【現地演習】</b>					
<p>① 45haの一斉人工造林地において、目標林型を想定したゾーニング、今後の施業方針を検討。</p> <p>現地は、森林計画の変更により既に取扱区分の整理がされている林分。区分前の図面、衛星画像、森林調査簿等を用いて机上調査した上で、現地を踏査し、地位に応じた森林のゾーニングと今後の施業方針を検討する。</p> <p>② 天然生広葉樹を活用して針広混交林の造成を行っている林分(H18伐採搬出、H19ヒノキ植栽)において、成功のポイントと今後の施業方針を検討。</p> <p>現地踏査により、ヤマザクラ、クリ等の広葉樹の萌芽や天然下種更新により更新が図れると判断した箇所とそれ以外の植林した箇所の違い等を把握し、天然更新の可能性の判断基準や成林の不確実性を最小限にするための方策、今後の施業方針について検討する。</p>					
<b>【グループ演習】</b>					
<p>班ごとに、テーマ①「一斉人工造林地のゾーニングー目標林型を想定したゾーニングと今後の施業方針ー」、テーマ②「天然力を活用した森林づくりー成功のポイントと今後の施業方針ー」について検討。いずれかについて発表した上で、全員でディスカッションすることにより、技術的ポイント等を共有する。</p>					
<b>【事前課題】</b>					
<b>【外部研修講師】</b>					
奥田 史郎((研)森林総合研究所関西支所 森林生態系グループ長)					